

## 低温（夏期）についての技術対策

### 露地野菜

#### 【事前対策】

内容	チェック欄	備考
夏期の低温は、梅雨等の長雨や曇雨天など、日照不足も伴うので、以下のような総合的な対策をとる。		
耐候性のある健全な野菜を栽培するため、堆きゅう肥の施用や緑肥作物の作付け・鋤込み等により、優良な有機物をほ場に供給し、土作りに努め、ほ場の保水性、排水性を高めておく。		
深耕を行う等して、耕盤を壊すことにより、作土層を深くしておき、作物の根を深層まで深く広く張らせる。		
明渠（排水溝）の掃除、ほ場周辺の溝切り等を行い、ほ場の排水性を確保する。		
夏期の低温が予想される場合は、マルチ栽培による低温対策、高畝栽培による湿害対策を図る。		
日照不足等により、生育遅延・軟弱徒長、生理障害及び病害が発生しやすくなるので、低温が予想される場合は、予め、追肥、葉面散布、殺菌剤予防散布等を行い、これに備える。		
秋口以降の作型では、早めにマルチ、トンネル、べたがけ資材を利用して、気温、地温を高める。		

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。

## 低温（夏期）についての技術対策

### 【事後対策】

内容	チェック欄	備考
長雨対策に準じる。		
作物の被害状況を確認して、今後の栽培計画を検討する。夏期の低温は広範な地域に影響を及ぼし、供給量の減少も予想されるので、できるだけ収穫・出荷に努める。		
生育初期で被害が甚だしく、回復の見込みがない場合は、植え替えやまき直しを行う。		
天候の合間を見て、適宜、追肥、葉面散布を行い、生育の回復を図る。		
作物登録のある殺菌剤による防除を適宜行い、病原菌の2次感染や腐敗防止に努める。		

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。